



TITLE:

【資料紹介】 シュンペーターとヴィーン大学

AUTHOR(S):

八木, 紀一郎

CITATION:

八木, 紀一郎. 【資料紹介】 シュンペーターとヴィーン大学. 調査と研究 : 経済論叢別冊 1993, 5: 63-83

ISSUE DATE:

1993-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/44385>

RIGHT:

【資料紹介】

シュンペーターとヴィーン大学

八 木 紀 一 郎

【解説】

I はじめに

シュンペーターは20世紀初頭のヴィーン大学が経済学の世界に送りだした逸材の一人である。第一次大戦直後の混乱のなかで政治と実業に参画して手痛い挫折を味わったあとの彼は、ライン河岸の大学都市ボン、そして大西洋を越えた米国東海岸のハーバード大学で、祖国を捨てた孤独な学者として生きた。しかし、多くの証言の伝えるように、彼はヴィーンで過ごした青年時代に特別の愛惜の情を持ち続けていた。それは彼にとって、思想と学問と友情を与えた、まさに「かの神聖で豊穡な10年」だったからである。

シュンペーターとヴィーン大学との関わりについては、これまで語られてきたことの多くは、本人あるいは周囲の人からの伝聞にもとづくものであった。いうまでもないことだが、こうした伝聞による情報には、固有の危険性が伴う。些末な例で悪いが、若きシュンペーターに感銘を与えたといわれるベーム＝バヴェルク・ゼミナールの時期確定の問題をとりあげよう。これは、大蔵大臣をやめてヴィーン大学に復帰したベーム＝バヴェルクの開いたゼミナールに、オットー・パウアーらの若いマルクス主義者たちがのりこんで論争をまきおこしたという知的事件であって、そこに居合わせたシュンペーターは「ベームとマルクス主義者たちの白熱した討論のなかで、その冷静かつ科学的な超越性によって、一般の注意を引いていた」¹⁾といわれている。しかし、私の知るかぎり、このゼミ

ナールについてシュンペーターが筆にしたのは、ベームゆかりのオーストリア唯一の経済学会雑誌によせたベーム＝バヴェルク追悼論文のなかの次のような短い章句でしかない：「ただ1904年以後において初めてわれわれすべてにとって忘れることのできない活動が開始された—あの夏学期における一連のゼミナールの討論がはじまったのである。」²⁾

ところが、このゼミナールの開かれた学期について、従来のシュンペーター伝は、40年前のハーバラーのそれにせよ、最近のスウェーデベリ、アレンのもの³⁾にせよ、1905年から1906年にまたがる冬学期を考えている。しかし、【資料1】として紹介するシュンペーターの聴講科目リストから明らかのように、事実上1905年の夏学期である。伝記作家たちの間違いは、このゼミナール参加者の不確実な回想に基づくものであろう。というのは、このゼミナールの参加者の一人であるルートヴィヒ・ミーゼスの回想は、ゼミナールのおこなわれた学期を「冬学

1) Gottfried Haberler, "Joseph Alois Schumpeter, 1883-1950", *The Quarterly Journal of Economics*, vol. LXIV, No. 3 (Aug. 1950), p. 337.

2) J. Schumpeter, "Das wissenschaftliche Lebenswerk Eugen von Böhm-Bawerks", *Zeitschrift für Volkswirtschaft, Sozialpolitik und Verwaltung*, vol. 23 (1914), S. 462.

3) Richard Swedberg, *Joseph A. Schumpeter - His Life and Work*, Polity Press, Cambridge, 1991, p. 14; Robert Loring Allen, *Opening Doors - The Life and Work of Joseph Schumpeter*, 2 vols, Transaction Publishers, New Brunswick (USA), 1991, vol. 1, p. 39. もちろん、私自身も混乱した経験があるので、このようなことを例として持ちだしたのであって、この2人の著者を笑うつもりはない。参照・拙著『オーストリア経済思想史研究』、名古屋大学出版会、1988、143ページ注5。

期」としているからである⁴⁾。ハーバラー自身は直接の出席者ではないから、彼の記述は当時存命中のミーゼスカフェーリックス・ソマリイ、あるいは1939年にニューヨークで客死したエミール・レーデラーからの伝聞によると思われる。先に引用したシュンペーターの記述は、ベームのゼミナールが1904年から開始されたという誤解を与えるかも知れないが、彼の大蔵大臣辞任が1904年10月であることを考えるなら、最初のゼミナール開講学期は1905年の夏学期になる。手元に十分な資料をおかずに回想録の筆をとった可能性があるミーゼスとは異なって、当時利用可能な資料すべて⁵⁾を利用しえたはずの1914年のシュンペーターが事実の間違いをするはずはないのである。

最近公刊されたスウェーデベリとアレニによるシュンペーターの2つの伝記は、かつてのシュンペーター伝説の域をこえた本格的なものであり、学生時代のシュンペーターについても、また学者として立ってから後のオーストリア、ドイツの経済学界との関連についても詳細な記述をおこなっている。特にスウェーデベリのものは、今回紹介する資料の一部、とくにハビリタチオン（講義資格獲得）関連書類をも利用したものである。しかし、上記のような誤りもまだ残されている。シュンペーターのような伝説につつまれた人物を研究するさいには、伝記作者の判断により取舍選択をほどこされる以前の資料そのものの紹介も意義あることではないだ

ろうか。それは、確認しうることが何であり、伝聞や推測にもとづくものが何であるかを見分けることに資するからである。

Ⅱ シュンペーターの聴講科目

以下では、まず学生時代のシュンペーターの基礎資料として、彼がヴィーン大学の法＝国家学部で彼が受講した科目のリスト【資料1】を紹介する。これは、同大学アルヒーフに保存されている受講登録原簿をもとに、1992年の7月にヴィーン大学アルヒーフに作成してもらったものであり、関係者の好意に深く感謝したい。これによるとシュンペーターは、1901/02年の冬学期を第1学期として、第8学期にあたる1905年の夏学期まで受講登録をおこなっている。この原簿は私も1990年春のヴィーン滞在の際にその一部を実見したことがある。

シュンペーターが自分自身の学修と研究の過程をどのように総括しているかについては、講義資格請求のさいに提出された履歴書【資料5】をみればよい。この履歴書によれば、シュンペーターは3種の国家試験と3種のリゴローゼンを受けて、1906年の2月16日に法学学位(Doktor Juris)を取得している。3種の国家試験というのは、オーストリアで「法および国家学」の修学によって公職につくことを望む学生が合格しなければならない「法史」、「司法」および「国家学」の3つの試験で、最初の「法史」は最低3学期の修学の後に受験できたが、これが履歴書のなかでいう「第1次国家試験」である。シュンペーターの聴講科目を見ると第4学期にも法史関連科目が含まれているので、彼は第5学期のはじめにそれを受験したものと考えられる。残り2つの国家試験の受験には、さらに最低4学期の修学が必要なので、これらを受験したのは第8学期の終わりであろう。リゴローゼンというのは、博士学位取得のための口述試験であって、この頃のオーストリアでは、学位論文の執筆・提出の必要はなかった。しかし、集中的な勉強が必要なものに変わりはなから、シュンペーターは第8学期を終えたあと

4) Ludwig Mises, *Notes and Recollections*, South Holland, Ill., 1978, p. 39.

5) そのうちで最も簡単に確認できるものは、ヴィーン大学が各学期ごとに刊行する講義目録である。私はヴィーン大学アルヒーフに保存されている各学期講義目録をもとに、1945年以前のこの大学における経済学講義のリストを作成した (With Yukihiko Ikeda, *Economics Courses at Vienna University 1849-1944*, Working Paper of the Kyoto University, Faculty of Economics, No. 1 and 3, 1988, 八木 池田幸弘「ヴィーン大学講義目録におけるオーストリア学派」『経済論叢』第140巻1/2号) ことがあるが、1904年の夏学期、1904-05年冬学期はベーム＝バヴェルク名誉教授は講義をしていないが、1905年夏学期に Volkswirtschaftliche Übungen を開講している。

の半年のうちのかなりの部分を、そのためにあてたことであろう。

シュンペーターの聴講科目のうち半分くらいは、この国家試験および学位取得のための必修聴講時間の規定⁶⁾にしたがったものである。しかし、学生シュンペーターは、その規定以外にも、一方では、他学部でおこなわれた多くの講義を聴講するとともに、演習形式 (Seminar ないし Übungen) の多数の講義に参加している。前者については、第1学期の哲学部での、ショーベンハウアーに関する特別講義や、マッハの見解の検討などを含む力学史の講義の聴講が目につくが、後の学期になると、論理学や数学 (確率論、微積分学、解析幾何学) への関心がうかがわれる。また履歴書で述べているような経済史への関心は、学部の枠を越えていて、哲学部のなかでの史学関係の講義をいくつか履修しており、そのなかには手書き文書解読法の講義まで含まれている。また、シュンペーターの生活スタイルとかかわって興味深いのは、1学期に英語をとっていること、また、第1学期、第2学期とかなりの時間を費やしてフェンシングを習っていることである。

経済学関係の講義としては、第2学期にすでに通商政策や貨幣・信用論の特論的な講義をとっているが、主要講義としては、第5学期にフィリップヴィッチから「国民経済学」、第6学期にヴィーザーから「財政学」、第7学期と第8学期にイナマ＝シュテルネックから、それぞれ「経済政策」と「統計学」を教わっている。また彼が「演習」に出て、直接の面識を得ていたと思われる経済学者は、ロベルト・マイヤー、イナマ＝シュテルネック、フランツ・ユラチェック、フィリップヴィッチ、ヴィーザー、ベーム＝バヴェルクである。しかし彼は、経済学関係の講義をとる以前から、エルンスト・シュヴィント、ジクムント・アドラーの法制史関係の演習に出席しているが、この関心は後の学期にいたるまで持続している。その他、彼は

ローマ法学説彙纂の評釈演習までも含めて多数の法学関係の演習に参加している。第一次大戦中にシュンペーターがドイツとの経済同盟を阻止するために秘密裡に連絡をとりようとしたハインリッヒ・ラムマッシュの刑法演習もその中にある。履歴書でシュンペーターは、これらの演習で、総計30回にわたる報告をおこなったといっている。

Ⅲ 講義資格授与 (ハビリタチオン) 関係資料

次に紹介するのは、シュンペーターが1909年にヴィーン大学で講義資格 (ハビリタチオン) を得た際の関係書類で、これはオーストリア国立文書館 (一般行政アルヒーフ) に保存されている。私が入手したのはヴィーン大学関連のファイルだけであって、彼のチェルノヴィッツ大学やグラーツ大学での資料は、そのなかには含まれていない。これを入手したのは3年以上前の1990年の8月であるが、これについても同文書館に感謝したい。

この書類ファイルは、1909年2月15日の日付のあるヴィーン大学法学部長メンツェルの文部大臣宛の講師資格授与決定の承認願い【資料2】と、それに添付されたシュンペーターの自筆履歴書【資料3】、講義担当可能科目の計画書【資料4】、さらに2月21日付のニーダー・エスターライヒ知事宛のシュンペーターの人物照会書【資料5】と、知事の回答を経て3月16日に文部大臣が承認の決定を下した文書【資料6】から成り立っている。なお、今回の資料紹介では、講義資格を得てヴィーン大学の私講師となったシュンペーターが大学の講義目録に予告した講義のタイトル【資料7】をこれに付している。

官庁間の公式文書である【資料2, 5, 6】のやり取り自体も興味深いものではあるが、いまはそれについては深入りしない。これらの官庁文書は、彼の講義資格取得についての基本情報 (講義資格授与申請から文部大臣の最終的承認にいたる各段階の日付、『経済学の本質と主

6) 当時の修学関係の規定については、前掲拙著『研究』の第9章を参照せよ。

要内容』が講義資格請求論文として提出されたこと、審査にはベーム＝バヴェルクとヴィーザーがあたったこと、試験講演を「抽象的な定理の統計学による論証」というタイトルでおこなったこと)を与えるものである。これらの文書から見たかぎりでは、ハビリタチオンの手続き自体は円滑に進行したように思える。

シュンペーター研究者にとってより貴重なのは、彼が提出した履歴書【資料3】と講義計画書【資料4】の方であろう。前者は、ベームやヴィーザーについてはそのゼミナールに参加したことしか書いておらず、経済学の理論的研究だけでなく広範な分野にわたって学修・研究をおこなってきたことを強調する内容になっている。彼は、まず第一に、経済史への関心が大学在学中の全期間にわたって持続したことを述べ、次には「数学的方針」と結びついた統計学、とくに現代統計学への関心をあげているが、さらに第三の関心として、イギリス滞在時にロンドン・スクール・オブ・エコノミックスのウェスターマークのゼミナール⁷⁾で刺激を受けた社会学・人類学への関心がある。ピアソン、ハッドンからの影響もあわせて考えると、シュンペーターの「社会学」の基調は、個人主義的・主意主義的方向に向かおうとしたヴェーバー、ジンメルのドイツ社会学とは肌合いの異なったもの

であったかも知れない。

講義計画書の方では、経済関係の4講義に加えて、社会学と統計学の各1講義の概要が記述されている。そのうち、「経済学入門」と「社会学」は、1909年の夏学期に実際におこなわれているが、1909年の秋にチェルノヴィッツ大学に赴任したために予告だけで実施されなかったと思われる1909/10年冬学期の講義「企業者と資本家」はこの計画書のI—3の「貨幣市場論」がより具体的にしようとしたものであったであろう。I—4の「現代国家財政の諸問題」は、同じく冬学期の「財政学の基礎」に対応している。残るものはI—2の「古典派と現代」と「統計学」の講義である。

この講義計画書は『本質と主要内容』を刊行したあとのシュンペーターが自分の発展的な関心の方向を包括的に示したものである。彼の第二作である『経済発展の理論』は必ずしもその全てと関連をもつものではない。また「貨幣市場論」のように関連しているとしても、第二作のなかで完成されたとはとても言えない計画もある。この計画書は、したがって、『経済発展の理論』さえも越えて、シュンペーターの生涯にわたる著作と研究活動を理解するために役立つであろう⁸⁾。

7) Edward Alexander Westermarck (1862-1939) は、スウェーデン系のフィンランド人であるが、1907年以来ロンドン・スクール・オブ・エコノミックスで社会学を教えた。彼の第1の主著は、原始乱婚・集団婚説や母系制先行説に反論した *History of Human Marriage*, 1st ed., 1891 であるが、シュンペーターが渡英したころには、*Development of the Modern Moral Ideas*, 2 vols., 1906, 1908 に取り組んでいた。その基調は、道徳的相対主義であるといわれる。(姫岡勤「ウェスターマーク」, 鹿島出版会『社会科学大辞典』, 第2巻, 1968, p. 65-66)

8) シュンペーターとウィーン大学の関連という点からみて、いま一つ残されているのはシュンペーターがなぜウィーン大学にポストを得ることができなかったのかという問題である。Swedeberg, *Schumpeter*, p. 92, 264 は、1918年にフィリッポヴィッチの後任人事をおこなったウィーン大学法学部に候補者の評価を求められたマックス・ヴェーバーが、シュンペーターを採用しなければ大学の大きな損害になるとした鑑定書を送っていることを紹介している。この熱烈な支持にもかかわらず、ウィーン大学はオトマール・シュパンを選択した。それ以前、あるいは以後のチャンスについても、シュンペーターを閉め出した経緯については、母校の教授たちの彼に対する評価なども含め、既発表・未発表資料の整理が必要であろう。

【資料1】 シュンペーターの聴講科目

簡略表記法について：

- 1) 講義科目名のあとの細角括弧内の数字は、とくにことわりのないかぎり、週あたり時間数。
- 2) 講師名のあとの職分表記は以下による。ただし、右肩に*がついたものは、「法および国家学部」以外の学部の職位である。

HP : Honorar-Professor [名誉教授]

OP : Ordentlicher Professor [正教授]

AOP : Ausserordentlicher Professor [助教授]

PD : Privatdozent [私講師]

Wintersemester 1901/02 (1. Semester) [1901/02年夏学期 (第1学期)]

- | | |
|--|-------------------------------------|
| —Geschichte und Institutionen des römischen Rechts, { 8 } | Moritz Wlassak, OP |
| 「ローマ法史と法学提要」 | |
| —Deutsche Rechtsgeschichte { 5 } | Otto von Zallinger zum Thurn, OP |
| 「ドイツ法史」 | |
| —Österreichische Reichsgeschichte { 5 } | Sigmund Adler, OP |
| 「オーストリア国制史」 | |
| —Einleitung in die Philosophie { 4 } | Wilhelm Jerusalem, PD* |
| 「哲学入門」 | |
| —Discussionen zur Geschichte und Philosophie der Mechanik (auf Grund philosophischer Originalstellen von Galilei, Newton, d'Alambert, Lagrange, Kirchhoff, Hertz, sowie der Geschichte von Dühring und Mach) { 2 } | Alois Höfler, PD* |
| 「力学の哲学と歴史」 | |
| —Über die Philosophie Schopenhauers { 1 } | Friedrich Jodl, OP* |
| 「ショーペンハウアーの哲学」 | |
| —Fechtkunst. Unterricht im Fechten mit allen Waffen | Paul Handmann, Univ.-Fechtlehrer |
| 12 Lektionen—6 Wochenstunden | |
| 12 Lektionen—6 Wochenstunden | Ludwig Handmann, Univ.-Fechtmeister |
| 24 Lektionen—12 Wochenstunden | Ludwig Handmann |
| 「フェンシング」 | |
| —Englische Sprache { 2 } | Gerard George Bagster |
| 「英語」 | Lector für englische Sprache |

Sommersemester 1902 (2. Semester) [1902年夏学期 (第2学期)]

- | | |
|---|-------------------------------|
| — Pandekten, II. Obligationen- und Pfandrecht { 8 } | Karl Ritter von Czychlarz, OP |
| 「パンデクテン第二部, 債権・担保法」 | |

- Romanistische Übungen [2] Karl Ritter von Czychlarz
「ローマ法演習」
- Pandekten, I. Allgemeine Lehren und Sachenrecht [8] Moriz Wlassak
「パンデクテン第一部, 総論及び物権」
- Römisches Familienrecht [3] Emil Schrutka Edler von Rechtenstamm, OP
「ローマ家族法」
- Romanistische Übungen [2] Robert Ritter von Mayr, PD
「ローマ法演習」
- Geschichte des deutschen Strafrechtes und gerichtlichen Verfahrens [4] Otto von Zallinger zum Thurn, OP
「ドイツ刑法・訴訟法史」
- Germanistische Übungen im Seminar Ernst Freiherr von Schwind, OP
「ゲルマン法演習」
- Übungen zur österreichischen Reichs- und Rechtsgeschichte [2] Sigmund Adler
「オーストリア国家・法制史演習」
- Über Handel und Handelspolitik [2] Karl Grünberg, AOP
「通商及び通商政策論」
- Geld und Kreditwesen [2] Julius Landesberger, PD
「貨幣・信用論」
- Fechtkunst. Unterricht im Fechten mit allen Waffen [6] Ludwig Handmann
12 Lektionen—6 Wochenstunden Paul Handmann
「フェンシング」

Wintersemester 1902/32 (3. Semester) [1902/32年夏学期 (第3学期)]

- Deutsches Privatrecht [5] Ernst Freiherr von Schwind
「ドイツ私法」
- Kirchenrecht [7] Karl Gross, OP
「教会法」
- Römisches Erbrecht [2] Karl Ritter von Czychlarz
「ローマ相続法」
- Römischer Zivilprozess [3] Emil Schrutka Edler von Rechtenstamm
「ローマ民事訴訟法」
- Romanistische Übungen (im Seminar) Moriz Wlassak
「ローマ法演習」
- Übungen zur deutschen Wirtschaftsgeschichte Kurt Kaser, PD*
[1]
「ドイツ経済史演習」
- Finanzwissenschaftliche Übungen [2] Robert Meyer, HP
「財政学演習」
- Handschriftenkunde des 16.-18. Jahrhunderts Alfred Francis Pribram, AOP*
[2]

- 「16—18世紀手書き文書論」
- Praktische und exegetische Übungen über ausgewählte Stellen der Digesten [2] Franz Klein, HP
- 「学説彙纂演習」
- Sommersemester 1903** (4. Semester) [1903年夏学期 (第4学期)]
- Geschichte der Rechtsphilosophie mit besonderer Berücksichtigung der politischen und sozialen Theorien [4] Edmund Bernatzik, OP
- 「法哲学史・政治社会理論」
- Ausgewählte Lehren aus dem Pandektenrecht (Pandekten-Repetitorium) [3] Josef Hupka, PD
- 「パンデクテン復習」
- Deutsches Erbrecht [2] Siegmund Adler
- 「ドイツ相続法」
- Die kirchlichen Rechtsquellen in Verbindung mit Übungen im Seminar [3] Karl Gross
- 「教会法源論および同演習」
- Das kirchliche Vermögens- und Strafrecht [2] Karl Gross
- 「教会財産法・刑法」
- Staatskirchenrecht [2] Max Ritter Hussarek von Heinlein, PD
- 「国家教会法」
- Praktische und exegetische Übungen über ausgewählte Stellen der Digesten (Sachenrecht und Erbrecht) [2] Stanislaus Pineles, PD
- 「学説彙纂演習 (物権・相続法)」
- Romanistische Übungen (für Vorgerücktere) [2] Moriz Wlassak
- 「ローマ法演習」
- Germanistische Übungen im Seminar Otto von Zallinger
- 「ゲルマン法演習」
- Politische und soziale Bewegungen in der europäischen Staatenwelt des 14.-16. Jahrhunderts [3] Kurt Kaser, PD*
- 「14—16世紀欧州諸国の政治的社会的運動」
- Wahrscheinlichkeitsrechnung [3] Franz Mertens, OP*
- 「確率計算論」
- Mathematische Statistik [3] Franz Mertens
- 「数理統計学」
- Pandekten, Obligationenrecht, spezieller Teil [2] Robert Ritter von Mayr
- 「パンデクテン, 債権特別部」
- Logik mit Rücksicht auf die neueren Reformversuche [3] Laurenz Müllner, OP*

「論理学, 近時の改革の試み」

—Finanzwissenschaftliche Übungen [2]

Robert Meyer

「財政学演習」

Wintersemester 1903/04 (5. Semester) [1903/04年夏学期 (第5学期)]

—Österreichisches allgemeines Privatrecht, I. Teil [7] Josef Freiherr von Schey, OP

「オーストリア一般民法第一部」

—Österreichisches Familienrecht, einschließlich eheliches Güterrecht [4] Leopold Pfaff, OP

「オーストリア家族法, 婚姻法」

—Österreichisches Strafrecht [5] Heinrich Lammasch, OP

「オーストリア刑法」

—Allgemeines und österreichisches Staatsrecht [5] Adolf Menzel, OP

「一般・オーストリア国家法」

—Nationalökonomie (Volkswirtschaftslehre) Eugen Philippovich von Philippsberg, OP

「国民経済学」

—Elemente der Differential-und Integralrechnung [5] Franz Mertens

「微分・積分計算論基礎」

—Internationales Privatrecht [2] Leo Strisower, AOP

「国際私法」

—Statistisches Seminar [2] Karl Theodor von Inama-Sternegg, HP/Franz Ritter von Juraschek, PD

「統計学ゼミナール」

—Volkswirtschaftliche Übungen [2] Eugen Philippovich von Philippsberg

「経済学演習」

—Österreichisches Privatversicherungsrecht [1] Josef Hupka

「オーストリア私的保険法」

—Österreichisches Arbeiterversicherungsrecht [2] Max Layer, AOP

「オーストリア労働者保険論」

—Seminar zur österreichischen Reichs- und

Rechtsgeschichte [1] Siegmund Adler

「オーストリア国家・法制史ゼミナール」

—Übungen im österreichischen Privatrecht [1] Eduard Fischer-Colbrie, PD

「オーストリア民法演習」

—Versicherungsmathematik [4] Alfred Tauber, PD*

「保険数学」

—Analytische Geometrie [4] Gustav Kohn, AOP*

「解析幾何学」

Sommersemester 1904 (6. Semester) [1904年夏学期 (第6学期)]

—Österreichisches Erbrecht [4] Leopold Pfaff

「オーストリア相続法」

- Österreichisches Privatrecht II. Teil [7] Josef Freiherr von Schey
 「オーストリア民法第二部」
- Österreichisches Strafprozessrecht [5] Karl Stooß, OP
 「オーストリア刑事訴訟法」
- Elemente des Differential- und Integralrechnung Franz Mertens
 [5]
 「微分・積分学基礎」
- Finanzwissenschaft mit besonderer Berücksichti- Friedrich Freiherr von Wieser, OP
 gung des österreichischen Finanzrechtes [5]
 「財政学, オーストリア財政法」
- Wahrscheinlichkeitsrechnung [3] Gustav Ritter von Escherrich, OP
 「確率計算論」
- Versicherungsmathematik [3] Alfred Tauber
 「保険数学」
- Seminar zur österreichischen Reichs- und Siegmund Adler
 Rechtsgeschichte [1]
 「オーストリア国家・法制史ゼミナール」
- Völkerrecht [4] Leo Strisower
 「国際法」
- Verwaltungslehre und österreichisches Verwal- Edmund Bernatzik
 tungsrecht, I. Teil [3]
 「行政学・オーストリア行政法」
- Seminarübungen aus dem deutschen Rechte [1] Ernst Freiherr von Schwind
 「ゲルマン法演習」
- Zollpolitik mit besonderer Berücksichtigung des Siegmund Feilbogen, PD
 österreichisch-ungarischen Tarifentwurfes [1]
 「関税政策, オーストリア=ハンガリー税率表草案」
- Analytische Geometrie [4] Gustav Kohn
 「解析幾何学」
- Differentialgeometrie, I. Teil [2] Gustav Kohn
 「微分幾何学第一部」
- Finanzwissenschaftliche Übungen [2] Robert Meyer
 「財政学演習」
- Volkswirtschaftliche Übungen [2] Friedrich Freiherr von Wieser
 「経済学演習」
- Strafrechtliche Übungen im Seminar [1] Heinrich Lammasch
 「刑法演習」

Wintersemester 1904/05 (7. Semester) [1904/05年夏学期 (第7学期)]

- Verwaltungslehre und österreichischen Verwal- Edmund Bernatzik
 tungsrecht, II. Teil [3]
 「行政学・オーストリア行政法」
- Österreichisches zivilgerichtliches Verfahren, I. Emil Schrutka von Rechtenstamm
 Teil [6]

- 「オーストリア民事訴訟法」
 —Österreichisches Handels-und Wechselrecht [5] Karl Samuel Grünhut, OP
 「オーストリア商法・手形法」
 —Volkswirtschaftspolitik [5] Karl Theodor von Inama-Sternegg
 「経済政策」
 —Statistisches Seminar [2] Karl Theodor von Inama-Sternegg/Franz Ritter
 「統計学ゼミナール」 von Juraschek
 —Finanzwissenschaftliche Übungen [2] Robert Meyer
 「財政学演習」
 —Seminar zur österreichischen Reichs- und Siegmund Adler
 Rechtsgeschichte [1]
 「オーストリア国家・法制史ゼミナール」
 —Volkswirtschaftliche Übungen [2] Friedrich Freiherr von Wieser
 「経済学演習」
 —Differentialgeometrie, II. Teil [2] Gustav Kohn
 「微分幾何学第二部」

Sommersemester 1905 (8. Semester) [1905年夏学期 (第8学期)]

- Österreichisches zivilgerichtliches Verfahren, II. Teil [6] Emil Schrutka Edler von Rechtenstamm
 「オーストリア民事訴訟法第二部」
 —Österreichisches Handels-und Wechselrecht [2] Karl Samuel Grünhut
 「オーストリア商法・手形法」
 —Allgemeine vergleichende und österreichisches Statistik [4] Karl Theodor von Inama-Sternegg
 「一般・比較・オーストリア統計学」
 —Volkswirtschaftliche Übungen [2] Eugen Böhm Ritter von Bawerk, HP
 「経済学演習」
 —Volkswirtschaftliche Übungen [2] Eugen Philippovich von Philippsberg
 「経済学演習」

【資料2】

ヴィーン大学法 = 国家学部発 文部省宛
 ヴィーン, 1909年2月15日
 (書類番号 B. 120 ex 1908/09)

ヨーゼフ・シュンペーター博士は、1908年10月22日に当地において政治経済学の講師資格の授与願書を提出しました。この件の審査員としてフォン・ベーム閣下と宮廷顧問官フォン・ヴィーザー氏が任じられ、両氏は添付のような鑑定をおこないました。この報告にもとづいて1908年12月14日の会議で、ハビリタチオン志願者をコロキウムに参加させることを決議しました。コロキウムは、1909年1月25日の会議のさいにおこなわれ、学部の全員一致で承認が与えられ、同時に候補者に試験講演をさせることが認められました。1909年2月15日の会議でシュンペーター博士は、学部によって定められたテーマである「抽象的な定理の統計学による論証」についての講演をおこない、学部はシュンペーター博士に、上級省の承認という条件付きで、政治経済学の講師資格を授与することを決議しました。

帝国文部省に、この件にかかわるすべての関連書類を添付して、この決定の承認を求める次第です。

学部長 署名 Menzel

Rechts- und staatswissenschaftliche Fakultät der
 k. k. Universität Wien

B. 120 ex 1908/09 Wien, am 15. Februar 1909

An: das k. k. Ministerium für Kultus und Unterricht
 Wien.

Dr. Josef Schumpeter hat am 22. Oktober 1908 hierorts ein Gesuch um Verleihung der venia docendi für politische Oekonomie überreicht. Zu Referenten über dieses Gesuch wurden die Herren Exz. v. Böhm und Hofrat v. Wieser bestellt, welche die beifolgenden Gutachten erstattet haben. In der Sitzung vom 14. Dezember 1908 wurde auf Grund dieser Referate beschlossen, den Habilitationswerber zum Kolloquium zuzulassen. Dasselbe hat in der Sitzung vom 25. Jänner 1909 stattgefunden und wurde von der Fakultät einstimmig genehmigt; zugleich wurde beschlossen den Kandidaten zum Probevortrag zuzulassen. In der Sitzung vom 15. Februar 1909 hat Dr. Schumpeter den Probevortrag über das von der Fakultät bestimmte Thema "Die Verifikation abstrakter Theoremen durch die Statistik" abgehalten und hat die Fakultät beschlossen, dem Dr. Josef Schumpeter vorbehaltlich der Bestätigung des hohen Ministeriums die venia docendi für politischen Oekonomie zu erteilen.

Ich erlaube mir diesen Beschluss [sic] unter Anschluss des Gesuches samt allen Beilagen dem k. k. Ministerium für Kultus und Unterricht zur Bestätigung vorzulegen.

Der Dekan Menzel

【資料3】

シュンペーターの自筆履歴書

私は1883年2月8日にメーレン州のトリーシュで生まれた（ローマ・カトリック教の信仰とドイツ民族性をもって同地に独立して居住資格をもつ）。私はグラーツの国民学校に通ったのち、ウィーンのテレジアヌム・アカデミーのギムナジウムに入り、そこでアビトゥーア試験〔大学入学資格試験〕を受けた。それから、私はウィーン大学の法＝国家学部での学修に入り、そこで3種の国家試験と3種のリゴローゼン〔学位取得のための口述試験〕を受けた。1906年の2月16日には、法学博士の学位を受けた。この年の夏学期を私はベルリンで、国家学ゼミナールの構成員として過ごしたが、それから後は主としてイギリスに滞在し、しばらくロンドン・スクール・オブ・エコノミックスの研究生となった。

私は当初から経済学を専攻するつもりであった。最初は私は経済史の研究に携わり、アドラー教授のゼミナールに加わったが、私はこのゼミナールに大学時代の全期間にわたって所属した。当時私はニーダー・エスターライヒ州文書館でニーダー・エスターライヒの身分別租税制度の研究をおこなった。そのあと私は、マイヤー政府局長の財政学ゼミナールに入り、第一次国家試験のあと、フォン・フィリップヴィッチ教授、その後、最後に、フォン・ベーム・バヴェルク閣下とヴィーザー男爵のゼミナールに入った。そのほか私は、3学期間にわたって、フォン・イナマ閣下とフォン・ユラチェック宮廷官の統計学ゼミナールに所属した。私が訪ねた他のゼミナールのなかでは、シュヴィント男爵のゼミナールをあげておきたい。これらのゼミナール全体で、私は総計およそ30回にわたる報告をおこなった。ゼミナール賞をもらったこともある（アドラー教授とシュヴィント教授のゼミナールでの研究に対し）。私の他の学修科目のなかでは、数学の講義をいくつか聴講したことをあげておきたい。歴史的な研究をおこなった最中と後に私が取り組んだ「数学的方針」については、私は故ゲーゲンbauer教授によってそれを示唆された。他の学修時間においては、私の研究はとりわけ、フォン・フィリップヴィッチ宮廷官の影響下にあった。その後、私が現代統計学に従事しているさいには、K・ピアソンとエッジ

ワースの、また人類学についてはハッドン教授の影響を受けたことに言及しなければならない。社会学の研究については、ウェスターマーク教授のゼミナールでの研究によって著しい刺激を受けた。

私は「国民経済学における数学的方法」（『国民経済学・社会政策・行政学雑誌』1906年）「分配理論におけるレントの原理」（『シュモラー年報』の2本の論文、1906/7年）、数点の小論文と一連の書評を公表している。また多くの論文を公表準備中である。ハビリタチオン論文としてこの申請に添付した本は、これら互いに補完しあっている現在の諸研究方針を一定の方針のもとに整序することを狙ったものである。

私は、公開講演はおこなったことがないし、また、日刊紙に記事を書いたこともない。私が所属しているのは、以下の団体である。“アドラー”紋章学研究会、オーストリア近世史研究会ウィーン支部、王立経済学協会、ロンドン。

Curriculum Vitae Schumpeters

Ich wurde geboren am 8. Februar 1883 zu Triesch in Mähren (dortselbst zuständig, römisch-kathorisch, deutscher Nationalität). Ich besuchte die Volksschule in Graz, sodann das Gymnasium der Theresianischen Akademie in Wien, an dem ich mein Abiturientenexamen ablegte. Sodann schlug ich meinen Universitätsstudien an der rechts- und staatswissenschaftlichen Fakultät der Universität Wien und unterzog mich den drei Staatsprüfungen sowie den drei Rigo-rozen. Am 16. Februar 1906 wurde ich zum Doktor der Rechte promoviert. Das Sommersemester dieses Jahres verbrachte ich in Berlin, wobei ich Mitglied des staatswissenschaftlichen Seminars, und die Zeit seither hauptsächlich in England, wobei ich eine Zeitlang research student an der London School of Economics war.

Von Anfang an hatte ich die Absicht, mich der Nationalökonomie zuwidmen. Zunächst beschäftigte ich mich mit wirtschaftsgeschichtlichen Studien u. zw. im Seminar H. Prof. Adler's, dem ich während meiner ganzen Universitätszeit angehörte. Ich arbeitete damals an einer Geschichte des landständischen Steuerwesens Niederösterreichs im n. ö. Landesarchive. Sodann trat ich in das finanzwissenschaftliche Seminar Herrn Sektionschef Meyer's ein und nach der ersten Staatsprüfung in das Herrn Hofr. von Philippovich, später endlich in die Exz. v. Boehm-Bawerks und Baron Wieser's. Außerdem gehörte ich durch drei Semester dem statistischen Seminare Exz. v. Inamma—Hofr. v. Juraschek an. Unter den andern Seminaren, die ich besuchte, möchte ich das Herr Baron Schwind's hervorheben. In allen diesen Seminaren habe ich im ganzen ungefähr dreißig Vorträge gehalten. Einmal wurde mir der Seminarpreis verliehen (für Arbeiten bei Herrn Prof. Adler und Prof. B^{on} Schwind). Von meinen übrigen Studien möchte ich den Besuch mathematische Vorlesungen hervorheben. Auf die "mathematische Richtung", die ich nach und mitten meiner historischen Studien einschlug, bin ich von dem verstorbenen Prof.

Gegenbauer hingewiesen wurden. Im übrigen stunden meine Studien vor allem unter den Einflusse Hofrat v. Philippovich's. Aus der Folgezeit sei meine Beschäftigung mit der modernen Statistik unter dem Einflusse von K. Pearson und Edgeworth, sowie mit Ethnologie unter Leitung Prof. Haddon's erwähnt. Weiter zurück datiert die Beschäftigung mit Soziologie, die durch Seminararbeit bei Prof. Westermarck sehr gefördert wurde.

Publiziert habe ich "Die mathematische Methode in der Nationalökonomie" (Zeitschr. f. Volksw. Soz. u. Verw. 1906), "Das Rentenprinzip in der Verteilungslehre" (zwei Artikel in Schmoller's Jahrbuch 1906/7), einige kleinere Artikel und eine Reihe von Rezensionen. Mehrere Arbeiten sind im Erscheinen begriffen. Das Buch, das ich als Habilitationsschrift diesem Gesuch beilege, nahm meine Hauptthätigkeit in Anspruch, solche gegenwärtig einer Ergänzung desselben in einer bestimmter Richtung geordnet ist.

Öffentlich Vorträge habe ich keine gehalten, auch keine Artikel in Tageszeitschriften veröffentlicht. Ich gehöre dem folgenden Vereinen an: k. u. k. heraldische Gesellschaft "Adler", Ges. f. neuere Geschichte Österreichs Wien und der Royal Economic Society London.

【資料4】 シュンペーターの講義プラン

講義について¹⁾

- 1) このリストは私が次の時期に意図している講義や、現在そうなることを見込んでいる講義の例を示すものである。

I. 経済学

1. 初心者のための経済学学習入門, 2時間

これは初心者がゼミナールでの研究に入るための準備を意図した講義であり、国民経済学の一般講義を、さらに研究を進める上で必要になる技術の観点から、補完するものである。

2. 古典派の継承者と現代の経済理論, 2時間

A. 現代理論は何によって古典派と区別されるか

B. 現代理論の本質とその最新の進歩

C. 1. 古典派の思想の現在における役割

2. われわれが古典派に感謝するもの

3. 古典派の、これまで注目されず、十分に議論も利用もされてこなかった思想と提言

3. 貨幣市場の理論 (時間数は事情による)

a. 貨幣市場の本質と諸機能, および、この機能に対応している職業, 諸階級, 諸個人

b. 国民経済と物質的生活の鏡としての貨幣市場一般

c. その最重要な諸現象, そのなかに見られる規則性

d. それを把握するための統計的, 理論的方法

e. 信用および資本の理論について

f. 貨幣市場と金貯蔵, およびその移動

g. 貨幣市場と国家

h. 貨幣市場と経済的發展

4. 現代国家財政の諸問題 (時間数は事情に応じて)

a. 歳出予算の發展, 全般的ならびに個々の国ごとに

b. その理由とそこから生じた財政上の諸問題

c. 国家の債務負担とそれにかかわる国家政策

d. とくに行政支出について

e. とくに国防支出について

f. 産業振興のための支出

g. 社会政策的支出

h. これら4範疇の相対的重要性, その変化, 説明はいかに

i. 結論, 将来の發展

j. 個々の諸大国の財政状態の比較と特殊的諸問題

II. 社会学

社会学の基礎と現在の状態, 2時間

1. 社会学はどのように成立し, またなぜそれが必要なのか

2. 社会学に所属する事象の領域

3. その諸問題

4. その方法と現在の成果

5. 社会学の主要潮流

6. 日常の社会学, 芸術家の社会学的認識

III. 統計学

現代統計学の諸問題 (時間数は事情による)

このタイトルまたは他のタイトルのもとに, 現代統計学の考え方と諸問題, ならびに具体的な聴講者が理解できるかぎり, その成果と方法を伝える。それは, 生物学および人類学と結びついて發展し, 現在とはとくにK. ピアソンの名前と結び付けられている現代統計学の潮流のものである。聴講者がこの講義から得られるのは, この方法によって何が達成されるか, その本質はどこに求められるか, なぜそれは不可欠なのか, また人口理論と経済統計学の目的にとって基本的な諸問題に関連してどのようなことが期待できるかについての概要である。ピアソン, エッジワース, ベルゴ[?], レキスその他の業績, および方法論の最重要な諸問題について, 経済統計の例を用いながら言及することによって, この領域の理解に貢献したい。ケトレーないしゴルトンその他の容易に近づきうる業績については, 本講義では取り扱われない。

von Vorlesungen¹⁾

- 1) Diese Liste soll Beispiele die von mir für nächste Zeit beabsichtigten Vorlesungen geben, so wie ich sie jetzt in Aussichtnahme.

I. *Ökonomische.*

1. *Einführung in das Studium der Politischen Ökonomie für Anfänger. 2 st.*

Diese Vorlesung ist als eine Vorbereitung des Anfängers für Seminararbeit gedacht und soll die allgemeinen Vorlesungen über Nationalökonomie von Standpunkte der technischen Bedürfnisse weiteren Studiums ergänzen.

2. *Das Erbe der Klassiker und die moderne ökonomische Theorie. 2 st.*

A. Wodurch sich die moderne Theorie von der Klassiken unterscheidet

B. Wesen und neueste Fortschritte der letzteren

C. 1. die Rolle klassischer Gedanken in der Gegenwart 2. Was wir den Klassiken verdanken 3. Darlegung jener Gedanken und Anregungen der Klassiker, welche niemals Beachtung fanden und auch heute noch nicht vollständig diskutiert und verwertet sind.

3. *Theorie des Geldmarktes* (Stundenzahl je nach Umständen)

a. Wesen und Funktionen des Geldmarktes und die diesen Funktionen entsprechenden Berufe, Klassen und Individualitäten

b. der Geldmarkt als Spiegel der Volkswirtschaft und des materialen Lebens überhaupt

c. seine wichtigsten Phänomene; Regelmäßigkeiten in demselben

d. statistische und theoretische Mittel zu ihrer Erfassung

e. zur Kredit- und Kapitaltheorie

f. der Geldmarkt und der Goldvorrat und seine Bewegungen

g. der Geldmarkt und der Staat

h. der Geldmarkt und die wirtschaftliche

Entwicklung

4. *Die Probleme des modernen Staatshaushaltes* (Stundenzahl nach Umständen)

a. Die Entwicklung des Ausgabenetats im ganzen und nach einzelnen Staaten

b. Ihre Ursachen und die sich daraus ergebenden finanziellen Probleme

c. Die Schuldenlast der Staaten und deren Politik in bezug auf dieselbe

d. Verwaltungsausgaben im besondern

e. Die Wehrausgaben im besondern

f. Ausgaben für Industrieförderung

g. Sozialpolitische Ausgaben

h. Relative Bedeutung dieser 4 Kategorien; Verschiebung derselben; wie zu erklären

i. Resultate; künftige Entwicklung

j. Vergleich der finanziellen Lage und der speziellen Probleme der einzelnen Großstaaten

II. *Soziologische.*

Die Grundlagen und die gegenwärtige Stand der Soziologie. 2st.

1. Wie die Soziologie entstand und warum sie nötig ist

2. Das Gebiet des ihr zugehörigen Tatsachen

3. Ihre Probleme

4. Ihre Methoden und gegenwärtiger Resultate

5. Hauptrichtungen der Soziologie

6. Die Soziologie des Alltages; die soziologische Erkenntnis des Künstlers

III. *Statistische.*

Die Probleme der modernen Statistik (Stundenzahl nach Umständen)

Unter diesem oder einem üblichen Titel möchte ich die Auffassungsweise, die Probleme und soviel von den Resultaten und Methoden, als dem konkreten Hörerkreise zugemutet werden kann, jener Richtung der Statistik mitteilen, welche sich im Anschlusse an die Biometrie und Anthropolgie entwickelt hat und gegenwärtig vornehmlich ein dem Namen K. Pearson's ge-

knüpft ist. Dem Zuhörer soll eine Vorstellung davon gegeben werden, was mit diesen Methoden erreicht werden soll, worin ihr Wesen besteht, wozu sie unentbehrlich sind und daß auch für die Zweck der Bevölkerungstheorie und der wirtschaftlichen Statistik von ihnen Anschluss über wesentliche Fragen zu erwarten ist. Die Leistungen Pearson's, Edgeworth', Perrrggo's

[?], Lexis' u. a. und die wichtigsten methodischen, Grundfragen möchte ich an Beispielen der Wirtschaftsstatistik erörtern und so zu Verständnis dieses Gebietes beitragen. Die leicht zugänglichen Leistungen Quetelet oder Galton's u. s. w. würden in dieser Vorlesung nicht bemühet werden.

【資料5】 文部省文書番号 Nr. 6350 Datum 15. Feb, 1909 u. Z. 120 Dept. VII

ウィーン大学法学部長室は、ヨーゼフ・シュンペーター博士への政治経済学の講師資格授与についての法 = 国家学部教授会の決議の上級認可を得るために書類を提出します。

関連：ヨーゼフ・シュンペーター博士

ウィーン大学法学部でのハビリタチオン

ニーダー・エスターライヒ州知事机下に

ハビリタチオン志願者の政治的・道徳的素行についての至急照会のために通知される。

ウィーン 1909年2月21日

K. K. Ministerium für Kultus und Unterricht.

Nr. 6350

Datum 15. Februar 1909 u. Z. 120

praes. 16.

Departement Nr. VII

Priora :

JURIDISCHES DEKANAT IN WIEN

unterbreitet zur h. o. Bestätigung den Beschluss des Prof. Kollegiums der rechts- und staatswissenschaftlichen Fakultät auf Erteilung der venia docendi für politische Oekonomie an Dr. Josef Schumpeter.

Zur Einsicht :

Betreff :

Dr. Josef Schumpeter, Habilitierung an der juristischen Fakultät in Wien.

wird dem

Herrn STATTHALTER FUER NIEDER-OESTERREICH

zur beschleunigten Aeussierung über das politische und moralische Verhalten des Habilitationswerbers übermittelt.

Wien, am 21 Februar 1909.

.....19/II

19/2

【資料6】 帝国文部省 文書番号 Min. Zl. 9501 ex 909. Dep. VII

ニーダー・エスターライヒ知事は、文書 Min. Zl. 6350 ex 909 に関して、ウィーンの法学部教授会がヨーゼフ・シュンペーター博士に政治経済学の講師資格を与える件について報告します。

.....

ヨーゼフ・シュンペーター、メーレン州トリエーシュにて1883年出生、カトリック、はウィーンのテレジアヌム・アカデミーのギムナジウムを出たあと、ウィーン大学で法学を学び、そこで1906年2月16日に法学博士号を得ました。その後、彼は修学目的でベルリン、さらにイギリスに向かい、同地に今まで滞在していました。ハビリタチオン論文として、彼は、ウィーン大学法学部に「理論的国民経済学の本質と主要内容」というタイトルの著作を提出しました。

この著作は、審査員ドクトル・フォン・ベーム＝バヴェルク教授と副審査員ドクトル・フォン・ヴィーザー教授によって鑑定を受け、両者からハビリタチオンの基礎として、適当、また、すぐれて適当と言明された。この審査報告を受けて学部は、シュンペーター博士をコロキウムに來させることを決議し、このコロキウムも試験講義も満足すべきものでした。

政治経済学の講師資格を与える決議は、1909年2月15日の教授会でおこなわれ、いまや認可をまっています。知事の報告によれば、シュンペーター博士の倫理上、国家公民上の問題はありません。

.....

I.

シュンペーター博士の政治経済学ハビリタチオン関連

文書 Zl. 120 dto. 15. Februar 1909

ウィーン大学法学部長室

私は、ウィーン大学法 = 国家学部の教授会がヨーゼフ・シュンペーター博士を上記学部における政治経済学の私講師として許可するという決議を確認しなければなりません。

報告に添付する文書は、履歴および講義プランを除いては、将来の事項に向けて本人の身上表を当地に提出するために求めにより返却されます。

II.

(I)の写しの上に)

ニーダー・エスターライヒ知事机下に、

1909年3月8日付け Zl. IX-1055/1 文書の報告につき執務参考までに通知。

III.

Min. Vdg. Blatt.

文部大臣はヨーゼフ・シュンペーター博士を当該学部の政治経済学私講師として認可するというウィーン大学法 = 国家学部教授会の決議を認可します。

ウィーン 1909年3月16日

署名

[担当官2人の3月10付け副署]

K. K. Ministerium für Kultus und Unterricht

Nr. 9501

Datum 8. März 1909 u. Z. IX-1055-1

praes. 9.

Departement Nr. VII

Priora : 6350 ex 909

STATTHALTER FUER NIEDER-OESTER-
REICH

berichtet ad Min. Zl. 6350 ex 909 in Angelegenheit des Beschlusses des Prof. Kollegiums der juridischen Fakultät in Wien auf Erteilung der *venia docendi* für politische Oekonomie an Dr. Josef Schumpeter.

.....

Josef Schumpeter, geb. im Jahre 1883 zu Triesch in Mähren, kathorischer Religion, besuchte das Gymnasium der Theresianischen Akademie in Wien und widmete sich hieauf den juridischen Studien an der Wiener Universität, an welcher er am 16. Februar 1906 zum Doktor der Rechte promoviert wurde. Hierauf begab er sich zu Studienzwecken nach Berlin und später nach England, wo er bis nun verweilte. Als Habilitationsschrift überreichte er an der Wiener juridischen Fakultät eine Arbeit unter dem Titel "Das Wesen und der Hauptinhalt der theoretischen Nationalökonomie".

Diese Arbeit wurde von Professor Dr. von Böhm-Bawerk als Referanten und Professor Dr. Freiherrn von Wieser als Korreferenten begutachtet und von denselben als geeignete bzw. vorzüglich geeignete Grundlage der Habilitation erklärt. Auf Grund dieser Referate beschloss die Fakultät, den Dr. Schumpeter zum Kolloquium zuzulassen, welches ebenso wie der Probevortrag zur Befriedigung auffiel.

Der Beschluss auf Erteilung der *venia docendi* für politische Oekonomie, welcher vom Prof. Kollegium in der Sitzung vom 15. Februar 1909 gefasst wurde, liegt nunmehr zur Bestätigung vor.

Laut Bericht des Statthalters ist Dr. Schumpeter in sittlicher und staatsbürgerlicher Beziehung unbeanstandet.

.....

Zur Einsicht:

Post manip.: Dep. VII
zur Vorbemerkung

I.

Betreff:

Habilitation des Dr. Schumpeter für politische Oekonomie.

ad Zl. 120 dto. 15. Februar 1909.

akkl. : Alle Blg. mit
Ausnahme des curriculum
vitae und des Vorleseprogrammes.

JURIDISCHES DEKANAT IN WIEN

Ich finde mich bestimmt, den Beschluss des Prof. Kollegiums der rechts- und staatswissenschaftlichen Fakultät der Universität in Wien auf Zulassung des Dr. Josef Schumpeter als Privatdozent für politische Oekonomie an der genannten Fakultät zu bestätigen.

Die Beilagen des Berichtes folgen im Anschlusse mit Ausnahme des curriculum vitae und des Vorleseprogrammes zur weiteren Veranlassung mit dem Ersuchen zurück, die Personalstandestabelle des Gennanten anher vorzulegen.

II.

(Auf Kopie von I) Wird dem
Herrn STATTHALTER FUER NIEDER-
OESTERREICH

unter Bezugnahme auf den Bericht vom 8. März 1909, Zl. IX-1055/1 zur Kenntnisnahme übermittelt.

III.

Min. Vdg. Blatt.

Der Minister für Kultus und Unterricht hat den Beschluss des Prof. Kollegiums der rechts- und staatswissenschaftlichen Fakultät der Universität in Wien auf Zulassung des Dr. Josef Schumpeter als Privatdozent für politische Oekonomie an der genannten Fakultät bestätigt.

Wien, am 16. März 1909.

.....

.....10/3

.....10/3

【資料7】

ウィーン大学講義目録から

1909年夏学期

- * 「初心者のための政治経済学入門」 2時間, 木曜日 5時から7時, 私講師ヨーゼフ・シュンペーター博士, 22番教室
- * 「科学的社会学の成立とこれまでの達成」 2時間, 水曜日 5時から7時, 同講師, 22番教室

1909 10年冬学期

- * 「企業者と資本家 (資本主義的集中傾向とそれに対応した貨幣市場での諸過程に特別の注意を払った現代国民経済分析)」 2時間, 水曜日 5時から7時, 私講師ヨーゼフ・シュンペーター博士, 25番教室
- * 「財政学の基礎, 純粋に法学的部分を除いて」 2時間, 火曜日 5時から7時, 同講師, 23番教室

Aus den "Öffentlichen Vorlesungen an der K. K. Universität zu Wien"

Sommer-Semester 1909

- * Einführung in das Studium der politischen Ökonomie für Anfänger, 2stündig, Donnerstag 5-7; Privatdozent Dr. Josef Schumpeter; Saal 22.
- * Die Entstehung und die bisherigen Leistungen der wissenschaftlichen Soziologie, 2stündig, Mittwoch 5-7; derselbe; Saal 22.

Winter-Semester 1909/10

- * Unternehmer und Kapitalisten (eine Analyse der modernen Volkswirtschaft mit besonderer Berücksichtigung der kapitalistischen Konzentrationstendenzen und der ihnen entsprechenden Vorgänge auf dem Geldmarkte), 2stündig, Mittwoch 5-7; Privatdoz. Dr. Josef Schumpeter; Saal 25.
- * Elemente der Finanzwissenschaft mit Ausschluss der rein juristischen Partien, 2stündig, Dienstag 5-7, Privatdoz. Dr. Josef Schumpeter, Saal 23.